

## 最新レポート

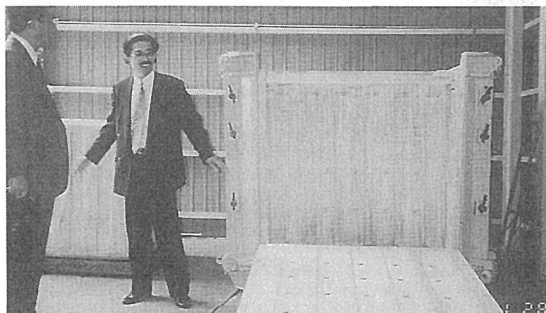
## 『ハーマシール工法新工場完成』

(株)東伸サービス

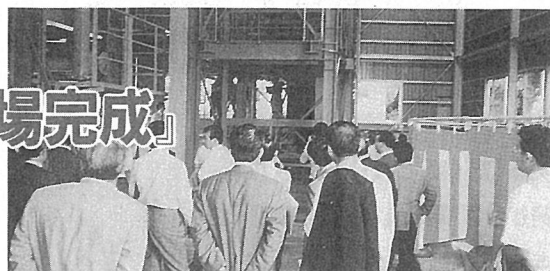
去る8月6日、(株)東伸サービス(本社:愛知郡日進町大字浅田字平子4-622、☎052-801-0775、中野弘道社長)日進研究所において、中間処理と最終処分概念を新しく塗り変える技術として注目される『ハーマシール工法』の新工場竣工式が行われました。当日、式典には来賓、当協会会員や県内外の自治体、関係団体から約120名が参列し、新中間処理工場の竣工を祝いました。

## 廃棄物を廃棄物にしない『ハーマシール工法』

ハーマシール工法の特徴は、大きく分けて廃棄物の無害安定化、減量化、再資源化の3つに集約されます。ハーマシールは、廃棄物を特殊なシートと補強金枠を備えたプレス型枠に入れ、驚異的な圧縮強度を誇るコンクリート製造技術を応用して一体成型を施した製品である。従来のコンクリート製品の圧縮強度は、 $150\text{kg}/\text{cm}^2 \sim 300\text{kg}/\text{cm}^2$ 。ハーマシールの場合には $1200\text{kg}/\text{cm}^2 \sim 1300\text{kg}/\text{cm}^2$ と堅牢で高密度な圧縮強度を持つ。さらに特筆すべきは、処理時に100tのプレスで廃棄物を1/2~1/5に圧縮固化することにより、処理量を通常2倍~5倍に増加可能にしたこと。また、廃棄物をシートに封入する際に内部を真空パックし、廃棄物とコンクリートの接触によるコンクリートの腐食防止に成功した点にある。廃棄物の浸出汚染、地下水汚染などの二次公害を防止し、その強固な耐久性を生かし二次製品(資源)としても利用可能。処分場のコンクリート槽、よう壁やえん堤、軟弱地盤の改良、土木・建設資材等に利用できるとあって、自治体や業界から注目を浴びている。



コンクリート型枠脱型



新工場見学風景

## マスコミが精力的に取材

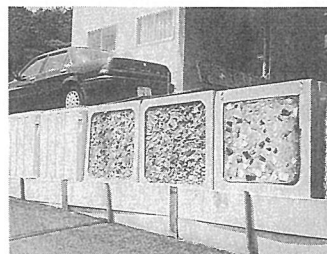
竣工式当日は、TV局の取材も行われ、ハーマシール工法に対する関心の深さがうかがわれました。とりわけNHKは、特集を組みたいとの要請を出し、後日放送が決定しています。

## 自治体も導入を検討

廃棄物処理に頭を悩ます地方自治体から、同工法に対する問い合わせが多数あり、導入を本格的に検討している地方自治体も出ているようです。

『この日進研究所に設置した施設は、本格稼働を目的としたものではありません。地方自治体、処理業者、排出事業者の皆さんに広くハーマシール工法を知っていただくためにつくられた、いわばテストプラントです。今後、説明会を開きながらハーマシール工法のメリットを啓蒙していきたいと考えています。』

と中野社長は語っています。



ハーマシール断面図

## 既に海外において特許を取得

現在、特許を申請中のハーマシール工法であるが、海外における特許は既にアメリカ、台湾の2カ国で取得。この他の国々の企業からも、同工法に対する問い合わせが来ているとのこと。日本よりもまず世界で、ハーマシール工法が高く評価されているようです。

同社は今後、廃棄物処理からリサイクルまで、ハーマシール工法の普及を通し、廃棄物の有機的な処理・再生法をさらに模索していく考え。